

2019
8月

スクールホットライン

水生生物調査

From 新栄小学校

6月4日(火)に新栄小学校のすぐ北側の大山川で、5年生62名が「水生生物調査」を実施しました。今年、保護者の方々に参観していただきました。子どもたちと一緒に調査に参加された方もみえました。

当日は、講師として尾張自然観察会指導員の柴田和則氏をお招きしました。最初に、この調査には「大山川の水质を調べる」「川に入って生き物を捕る体験をする」という2つの目的があることを確認しました。川に入るときは注意事項を聞いた後、6つのグループに分かれ、大山川の浅瀬に入り、どんな水生生物がいるかを調べました。

子どもたちは、始めのうちは水の冷たさと足下の不安定さにおそおそる足を進めていました。講師の説明通りに、草の根元、石の裏など、流れの淀んだ所にタモ網を入れてみると、いろいろな水生生物を捕ることができ、「カニが捕れたよ」「小さな魚がいくつかいる」など、あ

ちらこちらで子どもたちの歓声がありました。調査に参加された保護者の方も子どもたちと一緒に夢中で活動してみえました。

最後に、グループごとに採集できた生き物の種類と数を発表しました。講師の先生から「今回の調査で、タニシやヒルなどきかない水に住む生物も多く採集できたことから、大山川は、比較的きれいな水质の川であることがわかります」という話を聞く子どもたちの表情からは、身近な環境を大切にしたい、もっときれいな川にしていきたいという気持ちが感じられました。

また、親子で調査に取り組んだことで、子どもとのふれあい、心のつながりを深めるものになったことと思います。



私の航空史

空飛ぶお化け、 B-29より大きい 九二式重爆撃機飛ぶ(下)

岡野 允俊

その後、他社は欧米の一流戦闘機を研究、改良して90式艦上戦闘機を造り三菱の出る幕はなくなってしまいました。

折しも木と布の飛行機から金属機へと移り変わる過渡期でもあり、三菱の技術者には欧米諸国の複葉機をいつまでも模倣している時代ではないという意地がありました。苦しい時代でしたが、三菱はこの間に基幹技術者を積極的に欧米に派遣、留学させて航空技術の習得に努めたのでした。

しかし一方で、工場の操業度はどんどん低下していきました。企業である以上、きれいごとばかりでは食っていけません。この低迷期をなんとか乗り越えなくてはなりません

でした。そのため、海軍機の定期修理作業のほかに、洋服タンス、ピアノ台、テニスのラケットなどを作ったり、草取りをやったりして苦境を凌いだ時期もありました。しかし、こんな時代にも幸運なことに貴重な仕事が入ってきたのです。

それは、ドイツの航空機メーカーであるユンカーズ社製のG・38という輸送機をベースとした全金属製四発重爆撃機(九二式重爆撃機)でした。当時としてはあまりの大きさに社員はそれを「お化け」と呼んでいた程度でした。なんとB・29に比べても翼幅は1メートルも長く、翼面積は約2倍もあるという代物でした。このバカ力かい飛行機は陸軍が特命で三菱に造らせられたものでした。

合計6機が完成したときはすでに時代遅れとなり軍用機としては活躍できなかつたようですが、三菱にとってはこれにより貴重な経験を積むことができました。それはユンカーズの技術を吸収したことであり、強度規範から部品の標準化、図面の制式化、作業基準、検査基準に至るまで、あの合理的なドイツの方式を修得し、作業管理近代化の第一歩として、大変貴重な財産となったのでした。